

3. 特定家畜伝染病発生に備えた養豚防疫対応

大分家畜保健衛生所

○高原幸三・(病鑑)吉田史子・丸山信明

【はじめに】

宮崎県で口蹄疫が発生してから8年が経過し、その後国内においては発生がないものの東アジア諸国を中心に、未だ続発している。今年度、中国国内においてアフリカ豚コレラの発生、わが国においても26年ぶりに岐阜県で豚コレラが発生し、野生の死亡いのししからも本ウイルスが確認され予断を許さない状況である。そうした中、これら特定家畜伝染病の発生に備え、実際に発生した際の迅速な初動防疫計画書作成のため、必要人員および機材の数量を簡潔かつ明確に算定することが急務となっている。そこで、既存の牛豚共用の特定家畜伝染病防疫作業員算出シートを改良し、豚専用の算出シートの作成、それを基礎に養豚防疫対応を検討したので概要を報告する。

【従来の算出シート】

今までの防疫作業員数算出シートは、牛豚共用で作成されたため養豚農場においては不必要な項目が多い。そのため、こうした作業に慣れていない者では情報入力において迷い、迅速かつ的確な人数算定ができない。また農場全体ではなく豚舎毎に人員や機材を設定する仕様の為、人員及び機材が過剰に算出される傾向があるなどの問題もあった。

【改良型特定家畜伝染病専用の算出シート作成】

今回、入力情報を必要最低限な項目にし、そのシートを用いて管内養豚農家において初動防疫計画書を作成した。改良した算出シートを使用することにより、何班何人体制で防疫作業を行うか、それに必要な獣医師数も容易に判明し、さらに極めて大規模な農場での発生や連続発生時の、他県等への応援獣医師数の把握も可能である。

また実際に死亡豚を移動搬出した経験から、特定家畜伝染病発生時に用いられる大型の搬出用機材はおおよそ数種類で、それらとは別の特殊な機材を使う場合においても、その数種類で用いられる値(移動頭数やオペレーター数などの数)で代用的に必要な人員数や時間などを算出する事ができることが判った。そのためシート上で選択される大型機材の数は少なく限定できた。可能な限りシンプルにかつ見やすく、大型の搬出用機材の必要台数やオペレーターの必要最低限の人数把握が出来、県内外より迅速な招集が可能になってくる。また特定農場ではなく多くの農場で使用が可能なシートを作成した。

【まとめ】

改良型算出シートにより、短時間でより正確な人員数等を算出する事が出来、今回作成した初動防疫計画書は、今後の防疫体制整備に十分活用できるものと思われる。